環境庁委託

第2回自然環境保全基礎調査

植生調査報告書

1979

徳島県

目　　次

(1) 調査概要 …… 3

(2) 調査対象地域図 …… 9

(3) 凡例解説 …… 11

1 シコクシラベ群集 …… 11
2 コメツガ群落 …… 11
3 ササ群落 …… 12
4 ダケカンバ群落 …… 12
5 スズタケーブナ群団 …… 13
6 スズタケーブナ群団（スギーツガ群落） …… 13
7 ウラジロモミ群落 …… 13
8 ヒノキーシャクナゲ群集 …… 14
9 ミヤマクマワラビーシオジ群集 …… 14
10 コメツツジ群落 …… 15
11 クリーミズナラ群落 …… 15
12 アカシデーイヌシデ群落 …… 15
13 ニシキウツギーノリウツギ群落 …… 16
14 ススキ群団（ススキ群落） …… 16
15 タラノキークマイチゴ群落 …… 16
16 イワシデ群落 …… 17
17 モミーシキミ群集（モミ群落） …… 17
18 ツガーハイノキ群集（ツガ群落） …… 18
19 サカキーウラジロガシ群集（アカガシ群落） …… 18
20 サカキーコジイ群集（コジイ群落） …… 18
21 ホルトノキ群落 …… 19
22 スダジイ群落 …… 19
23 ウバメガシ群落 …… 19
24 河辺ヤナギ低木群落（キシツツジ群落） …… 20
25 コナラ群落 …… 20

26　シイ・カシ萌芽林 …… 20
27　伐跡群落（ヌルデ群落） …… 21
28　ススキ群団（チガヤ群落） …… 21
29　路傍雑草群落（オオアレチノギク—ヨモギ群落） …… 21
30　アカマツ群落 …… 22
31　クロマツ群落 …… 22
32　ヨシクラス（ヨシ群落） …… 23
33　ハママツナ—ハマサジ群落 …… 23
34　砂丘植生（コウボウムギ群落） …… 23
35　クロマツ植林 …… 24
36　スギ・ヒノキ・サワラ植林（スギ植林） …… 24
37　カラマツ植林 …… 24
38　外国産針葉樹植林（スラッシュマツ植林） …… 25
39　モウソウチク林 …… 25
40　常緑果樹園 …… 25
41　落葉果樹園 …… 25
42　桑　園 …… 26
43　茶　畑 …… 26
44　苗　圃 …… 26
45　畑地雑草群落 …… 26
46　ゴルフ場 …… 26
47　水田雑草群落 …… 26
48　市街地 …… 27
49　緑の多い住宅地 …… 27
50　工場地帯 …… 27
51　造成地 …… 27
52　自然裸地 …… 27

(4)　植生調査表 …… 28

(5)　資料リスト …… 69

(6)　調査担当者名簿 …… 69

(1) 調 査 概 要

ア) 調査地域の範囲

徳島県における調査地域の範囲は，1／5万地形図の伊島，鳴門海峡，徳島，阿波富岡，日和佐，三本松，甲浦，剣山，北川，馬路，川口，大栃，伊予三島の計13枚で，瀬戸内海国立公園鳴門地区，剣山国定公園，室戸阿南海岸国定公園の全てが含まれている。

イ) 調査の実施方法

昭和48年度の第1回植生調査時の現在植生図を参考にしながらさらに空中写真で修正し，かつ，現場で確認した。

群落区分については細分しなかった。

ウ) 植生の概要

徳島県では海岸から海抜1955m（剣山）までの標高差があり，照葉樹林帯から針葉樹林帯までひと通りの植生が残っている。

(A) 亜寒帯・亜高山帯自然植生

本県では針葉樹林帯は海抜1,700～1,800m以上で純林の形成をみ，剣山二の森のそれは見事である。また，一部にはコメツガの純林があり，ヒメコマツもこの帯に生育してはいるが林となるまでにはいたっていない。本県として貴重な群落で亜寒帯植物林として県指定天然記念物となっている。

(B) 亜寒帯・亜高山帯代償植生

剣山からジロウギュウ，丸笹山から塔の丸，矢筈山から寒峰にかけての稜線沿いの風衝地にはミヤコザサ（シコクザサとよんでいた）の優占する風衝草原ミヤコザサ群落が発達している。なかでも三嶺から天狗塚にかけてはミヤコザサの中にコメツツジが斑状に生育するコメツツジ群落が特異な景観をつくっている。そして。その下部にはかなり広い範囲にわたってダケカンバ

林がみられる。これは，亜高山帯針葉樹林の崩壊跡やミヤコザサの枯死跡などに二次的に生じたものである。

(C) ミズナラ－ブナクラス域自然植生

この域の大部分はブナ林で占められ，主に剣山地，海部山地の海抜1,000m以上にあって，1,200～1,400m付近でよく発達している。林床は一般に海抜の低いところではスズタケが密生しており，上部ではミヤコザサがこれに代わることが多い。また，場所によってはテンニンソウやオオマルバノテンニンソウなどが一面に繁っていることもある。

ブナ林ではしばしばウラジロモミが混生し，上部ではウラジロモミ林を形成している。また，シコクシラベもまじえ，次第にシコクシラベ林へと推移している。剣山地では谷沿いにチドリノキ，フサザクラ，シオジなどを伴ったサワグルミ林がブナ林の中へ細く帯状に入りこんでいる。那賀郡木頭村南川の上流には，スギ一ツが群落があり，湯桶谷に広く発達していたが，伐採されつつある。ヒノキ林は野鹿池山にツクシシャクナゲとともにわずかに残されている。このように，吉野川以南の山地には広くブナ林がみられるが，讃岐山地ではわずかに大滝山（海抜940m）にブナ林がみられるにすぎない。

(D) ミズナラ－ブナクラス域代償植生

冷温帯の二次林は主にクリ－ミズナラ林で，剣山夫婦池付近に等高線沿いに発達する他，ブナ林伐採跡の天然更進地に広くみられるのが普通である。風衝地に近いブナ林の上部には低木のニシキツギ－ノリウツギ群落が発達し，高木林から低木林に漸次推移し，ついには風衝草原となっている所が多い。この帯におけるススキ群落は採草がくり返される所に発達したもので，山城町の塩塚峰や根津木越に代表的なものがみられる。また，アカシデやイヌシデなどのシデ林はこの帯の下部にみられる。一次林または二次林が伐採された直後には伐跡群落であるタラノキ－クマイチゴ群落が一時的に発達し，各山地に多くみられる。

(E) ヤブツバキクラス域自然植生

ブナクラス域下部からヤブツバキクラス域上部は，両者の構成種である落葉広葉樹と常緑広葉樹が入りまじって群落を構成しているので推移帯ともよばれている。こういう所では高木層にモミやツガの樹冠が他の樹より高くつき出しているのでモミ－ツガ林などとよばれることもある。一般にモミは尾根近くに多くみられモミ－シキミ群集として扱われ，そして，谷に近いところでは，ツガ－コカンスゲ群集が発達している。また，石立山の石灰岩地には特有のイワシデ群落がみられる。本県におけるヤブツバキクラス域の気候極相はシイ林であるが，シイの自然林は社叢などに残されているにすぎない。海岸近くではスダジイ群落や，また，内陸部ではコジイ群落が一般にみられる。また，ホルトノキ群落は徳島市城山にその代表がある。海岸に面した急傾斜地で土壌が少なく常に強い風が当たるような立地ではシイなどは生育できず，ウバメガシ群落が発達している。県南の蒲生田岬から南の岩石海岸の崖に帯状に分布している。

吉野川上流の大歩危付近や那賀川中流域の河岸にはキシツツジやカワヤナギ，カワラハンノキなどからなる河辺ヤナギ低木群落が細い帯状にみられる。那賀川の鷲敷付近ではこれにナカガワノギクやトサシモツケを含み，全県的にも貴重な群落がある。

(F)　ヤブツバキクラス域代償植生

ヤブツバキクラス域は，元来人間の居住できる生活域で，上限はほぼ茶の栽培限界と一致している。したがって，昔からよく人工が加えられたため自然植生の面積は極端に狭い。また，同じような地理条件の場所でもそこに人工の加わる頻度などによっても群落は異なってくる。このようにして，古くからよく利用されてきた地域であるため，代償植生の群落の種類もまた多くなっている。

コナラ群落は，讃岐山脈や四国山地，剣山地のやや高い所にみられ，ほとんどミズナラ林と接する（海抜８００～９００ｍ）ところまで上がり，所によってはミズナラとコナラとが混生している。海抜の低い山腹や県南の海部山地には広くシイ・カシ萌芽林がみられる。これはかって薪炭林として択伐が

くりかえされていた林で，海岸近くではウバメガシとスダジィが多く，内陸部へいくにつれて次第にアラカシとコジィに移り変わる傾向がみられる。雨量の少ない乾燥した県北部，吉野川両岸の讃岐山脈と四国山地に広くアカマツ群落が発達しているが，池田から紀伊水道に向かってラッパ状に広がっている。アカマツ群落も低い所では林床にモチツツジを伴うが高所ではオンツツジが多くなる傾向がみられる。また，阿南市，鳴門市の海岸近くでは，クロマツが優占するクロマツ群落がみられる。これらのコナラ群落，シイ・カシ萌芽林，アカマツ林，クロマツ林などが伐採された直後には伐跡群落としてベニバナボロギク－ダンドボロギク群落，クサイチゴ－タラノキ群落などが一時的に姿をあらわす。

川岸や土手に接した所に流れに沿って細長くしばしばヤダケ，メダケ，マダケなどが密生したタケ群落がみられる。そして，堤防や小丘陵地，造成地などにはススキやチガヤが密生したススキ群落がある。

人里に近い路傍にはヨモギ群落，オオバコ群落，クズ－カナムグラ群落などの路傍雑草群がみられるのが特徴である。

(G) 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生（各クラス域共通）

① 河辺　吉野川，勝浦川，那賀川などの河口には川岸に沿って長い帯状にヨシ群落が発達している。また，那賀川河口の辰巳町の水田は現在では全てなくなり，広いヨシ群落におきかえられている。

② 湿原　徳島で湿原といえば黒沢湿原がその代表である。ここには貴重なヒメミクリ，サギソウ，ミヤコアザミなど四国で黒沢湿原にだけ産する種の他，トキソウ，ヒツジグサ，ムカゴニンジン，スイラン，ヤマドリ，ゼンマイ，ミズゴケなど珍しい湿性植物を沢山産していたが，現在では荒らされ昔日の面影はなくなっている。

③ 塩沼地　遠浅海岸の河口で波の影響が少ない内湾部は，定期的に海水や半かん水に浸っている。こういうところを塩沼地とよび，ハマサジ－フク

ド群落がみられる。かつては，那賀川町の出島に曲型的な内湾があり，塩沼植生がみられたが，護岸工事のためなくなり，今は徳島市大原町篭に小規模なものがみられるにすぎない。

④　砂丘植生　海岸砂丘植生は鳴門から那賀川町までの海岸に発達した砂浜にみられたが，これまた海岸の護岸工事によってその大部分が失われ，コウボウムギ群落が鳴門市竜宮ノ磯，阿南市淡島海岸にわずかにみられるにすぎない。しかし，これらの場所も帰化植物の侵入によって本来の姿を失いつつある。

(H)　植林地・耕作地植生（各クラス域共通）

海岸の防潮防風林として植えられたクロマツ群落が各地の砂浜海岸に帯状にみられるが，護岸工事やマツクイムシの被害などのため次第に衰えてきている。しかし，北の脇海岸や大里海岸などのクロマツ林は植えられた幼木が順調に育っている。

県の山林の半分以上を占めるのはスギ・ヒノキの植林で剣山地の南側の多雨地帯を中心に生育がよい。カラマツ植林も水ノ口峠，風呂ノ塔などにあるが県下全体ではたいした面積にはならない。

外国産針葉樹植林として，カリビアマツ，リギダマツ，スラッシュマツ，テーダーマツ，ストローブマツなどが植えられているが，市場町には，ある製紙会社の広い植林地がある。

外国産針葉樹植林としては，ニセアカシアが山腹の崩壊しやすいところなどによく植えられているがごく小面積にすぎない。

竹林としては，阿南市一帯にモウソウチク林が広くみられる。また，吉野川中流域河岸には帯状にマダケ林が昔の防水林としてのその姿をとどめている。

常緑果樹園は主にミカンで，勝浦川沿いの山腹に広く栽培されている。落葉果樹園は，鳴門市のナシ，板野郡から阿波郡にかけてのブドウ，三好郡の

クリなどがこれに含まれる。その他山城町と相生町の茶園，吉野川流域の桑園，剣山山麓の苗圃，腕山や西山放牧場などにみられる牧草地，眉山，月の宮，阿南市，阿波町，御所などのゴルフ場，そして，水田雑草群落や畑地雑草群落などは水田や畑地にみられるものである。

(I) その他

上記以外として，市街地，緑の多い住宅地（緑被率６０％以上），工場地帯，造成地，干拓地，開放水域，自然裸地などがある。

(2) 徳島県調査対象地域図



(3) 凡 例 解 説

凡例の新設と順序の変更について

1 新　設

コード番号
420　スズタケ－ブナ群団の中に

425　スギ－ツガ群落を新設した。

理　由　天然のスギ母樹林として特別に指定されている群落がある。

色彩凡例　　無色 31

2 変　更

4KO　イワシデ群落

凡例一覧表では，ブナクラス域自然植生に入っているが，本県ではヤブツバキクラス域の石灰岩地に生育しているのでヤブツバキクラス域自然植生の項に入れた。

(A) 亜寒帯・亜高山帯自然植生

1 シコクシラベ群落

この群落は，剣山（1,955m）の海抜約1,800m以上の尾根近くにある。調査地では，樹高約8mのシコクシラベが残林状を呈し，各階層にシコクシラベが生育している。第2低木層にはコヨウラクツツジが優占し，草木層にはゴカヨウオウレン，コミヤマカタバミ，アリドオシラン，イワセントウンウなどがみられる。なお，この林内にはシコクシラベの幼木が多く，また，ハクサンシャクナゲもわずかながら生育している。

本県としては他に例をみない群落で，剣山国定公園の中心部にあり，「剣山並びに亜寒帯植物林」として天然記念物に指定（S,29.1.29）されている。

2 コメツガ群落

コメツガの純林は剣山にただ1カ所みられる。ここでは，樹高15～20m，

胸高直径２０～６０cmのコメツガが純林を形成し，亜高木層，低木層には全く他の樹種をみない。草本層にはミヤコザサが密生し，その中にわずかにコメツガの幼木がみられた。前回（第１回）の調査時には剣山で２カ所認められたが，他の１カ所のコメツガ群落は枯れてなくなってしまった。このコメツガ純林も，亜高木層，低木層に後継木がないため，高木層が枯死すればなくなる運命にあると考えられる。剣山国定公園に含まれているが，最近では年間数十万人が剣山に登山しているため自然の保全が困難となってきている。

(B)　亜寒帯・亜高山帯代償植生

３　ササ群落（ミヤコザサ群落）

この群落は，海抜1,５００m以上の山頂や尾根筋で，よく風が当たる所に発達するもので，本県における風衝草原である。剣山系で最もよく発達しており，一面に密生した丈の低いミヤコザサの中にショウジョウスゲが斑状に生育し，コモノギク，コガネギク，シコクフウロ，タカネオトギリ，トゲアザミ，ツマトリソウなど亜高山に特有な種を多く含む貴重な群落である。剣山国定公園の中心部に位置しているが，毎年増加する登山者のため，剣山頂上付近のこの群落は踏み傷められ，ミヤコザサは枯死し，裸地化している所さえ生じている。積極的な保護対策を必要とする。

この群落は，第１回目の調査時には，亜寒帯，亜高山帯自然植生の項にシコクザサ群落として記したが，第２回の四国ブロックの打合わせ会で代償植生の方へ含める方が適当ということで，今回は，代償植生の項に記す。

４　ダケカンバ群落

剣山地の風衝草原に接してすぐ下側に所々ダケカンバ群落がある。これは１９５４年剣山一帯のミヤコザサが開花結実し，翌年広範囲にわたって枯死したが，このあとに生じたダケカンバの幼木林である。この群落は地形その他の環境条件により樹高の高い群落や低い群落があるが，本調査地では，樹高約２m，胸径２cmぐらいのダケカンバが一面に密生し，ノリウツギやコヨウラクツツジなどが混生し，草木層にはミヤコザサが密生し，その中にダケカ

ンバのほかシラネワラビ，ミヤマワラビ，クロボシソウ，ショウジョウスゲなどが生育しているものである。

(C) ミズナラーブナクラス域自然植生

5 スズタケーブナ群団

本県では，ブナは海抜約1,000mから出現し，1,200～1,400m付近でよく発達している。この群落は樹高約30m，胸径約80cmのブナが優占し，モミ，アズサの大木も混じえ，亜高木層にもブナが優占し，コハウチワカエデなどもあるが植被率は高木層ほどではない。低木層は2層に区別でき，上層は樹高約6mのリョウブ，アズサ，ノリウツギなど，また，下層はせいぜい約3m，ノリウツギ，マルバアオダモ，シロモジ，ハスノハイチゴなどがみられる。草本層はミヤコザサとスズタケとが混じって密生しているため，その他の草本類はほとんど生育しておらず，わずかにミツバテンナンショウ，キヨタキシダ，テンニンソウなどがみられた。

6 スズタケーブナ群団（スギーツガ群落）

木頭村南川上流の池野河山に，スギの天然林があり，スギの特別母樹林に指定されている。ここでは高木層に樹高約15mのスギとツガが優占し，ブナ，アズサ，コハウチワカエデ，モミなども混生し，亜高木層にはシキミ，リョウブ，エゴノキなど，低木層にシロモジブナ，コバノミツバツツジ，オンツツジなど，そして，第1草本草にはスズタケが密生している。このようなスギの天然林は，湯桶谷にもあったが，現在下部より皆伐が進みつつある。

7 ウラジロモミ群落

剣山地の尾根に発達する風衝草原ミヤコザサ群落の下側に，海抜1,600～1,800mにかけて所々にまとまったり，或は細長く帯状に生育している。これらはほとんどが純林状をなし，密生している群落内では他の植物はほとんど生育していない。調査したスタンドは，周囲がやや開けており，沢山の種類を含む。高木層に樹高約15m，胸径約65cmのウラジロモミが優占し，

亜高木層を欠き，第１低木層にはわずかにコバノトネリコが１株あるのみで，第２低木層にオオカメノキ，ミヤマイボタ，ウスギョウラクなどが散生し，草本層はテンニンソウが一面に密生し，その間にメタカラコウ，シシウド，イシジチウスバアザミ，クガイソウ，レイジンソウなどの草本が生育しているものである。なお，この辺は，剣山のお花畑と呼ばれているところである。

８　ヒノキーシャクナゲ群集

徳島県にただ１カ所，野鹿池山頂にある池のほとりにみられる群落で，昭和５０年まではこの周囲をブナ林がとりまいていた。現在ではこの池に水を供給していたブナ林が伐採された（昭和５１年）ため，乾燥の一途をたどっている。

この群落は，高木層を欠き，亜高木層に樹高約８ｍ，胸径約１２cmのコハウチワカエデ，ヤマウルシ，コミネカエデなどが生育しているが，その中にヒノキの古木（樹高は高くない）がみられる。低木層にはホンシャナゲが，枝をからみ合わせて叢生し，ヤマウルシ，ウメモドキなども混生，草本層は光が十分達しないため発達が悪く，わずかにツルシキミが生育しており，その他上層構成種の種子から発芽したと思われるウリハダカエデ，ヤマウルシ，コミネカエデなどが散生している。なお，オオミズゴケが小面積ではあるがマット状にみられた。

９　ミヤマクマワラビーシオジ群集（サワグルミ群落）

剣山のブナ群落内に祖谷川から谷沿いに細長く入りこんでいるのがこの群落で，特に大剣谷ではよく発達したサワグルミ群落がみられる。ここでは，高木層に樹高約３０ｍ，胸径１００cmのサワグルミが優占し，シオジの大木，ウリハダカエデ，アズサなども混生している。亜高木層には，イタヤカエデ，シオジ，カツラなど，第１低木層にはチドリノキが優占し，シオジの幼木，サワシバ，オヒョウなど，第２低木層にはヒメウツギ，ニワトコ，チドリノキ，バイカウツギなどが点在している。そして，ヤマブドウが低木層から高木層の各階層にのぼり上がっているのが特異である。また，草本層にはテン

ニンソウ，ギンバイソウ，ジュウモンジシダ，モミジガサ，キツリフネ，コチャルメルソウなど湿性の草本が多種類生育している。

10　コメツツジ群落

剣山地の尾根筋には，風衝草原としてのミヤコザサ群落が発達しているが，特に三好郡東祖谷山村三嶺から天狗塚にかけての尾根には，コメツツジが斑状に生育したコメツツジ群落がある。剣山地の尾根にはコメツツジは普通にみられるが，これ程広範囲に群落を形成しているところは他にない。ここでは常時強風下にあるため，コメツツジの樹高は１ｍ程で，前述のミヤコザサ群落の構成種とよく似ている。調査地点では，特にコメツツジが優占しているため，ミヤコザサの被度が小になっているが，コメツツジが疎な場所ではミヤコザサの被度・群度は大になっている。

(D)　ブナクラス域代償植生

11　クリーミズナラ群落

四国山地，海部山地などのブナ林の伐採跡に生じた二次林で，ミズナラが優占しているものである。剣山ではミズナラがほとんど純林状に生育し，高木層には樹高約１０ｍ，胸径約５０cmのミズナラが優占し，アカマツも混生し，高い植被率で林冠を形成している。（この辺がアカマツの生育している最高所である）。亜高木層にはリョウブ，ミズナラ，ハリギリなどがわずかにみられ，第１低木層にツガ，リョウブなど，第２低木層にもリョウブの他，アオハダ，ノリウツギ，タンナサワフタギなどが散生しており，草本層にはミヤコザサが密生しており，その中にツルシキミ，ハスノハイチゴ，アオハダ，アサノハカエデ，ナナカマド，コハウチワカエデなど冷温帯林要素が多くみられる。

12　アカシデーイヌシデ群落（イヌシデ群落）

冷温帯下部にみられる二次林で，剣山の斜面中腹では，高木層に樹高１０～１２ｍ，胸径約２０cmのイヌシデが優占し，ナツツバキ，ミズナラ，アズ

サ，ウリハダカエデなどがかなり密に生育し，亜高木層にはアオハダ，リョウブ，イヌシデ，ハリギリ，エゴノキ，アワブキなどがみられ，低木層にはコバノミツバツツジ，アオハダ，ケクロモジ，ナツツバキなどが散生しており，高木層の林冠が密なため林床は発達が悪く，特に優占する種はないが，上層構成種の幼木とヤマシロギク，シシガシラ，ニガナ，ホウチャクソウ，ヤマムグラ，ヒヨドリバナ，オオカモメヅル，ハエドクソウ，アキノキリンソウなど多種類が群落構成種として生育している。

13　ニシキウツギ－ノリウツギ群落

四国山地の尾根にある風衝草原（ミヤコザサ群落）の下部或はミヤコザサ群落とブナ群落などの境には，ところによってはニシキウツギやノリウツギを主な構成種とする低木林がみられる。三好郡東祖谷山村の落合峠付近では，樹高2～4mのノリウツギ，リョウブ，ウリハダカエデ，ニシキウツギなどが散生し，草本層にはオオマルバノテンニンソウ，ススキ，ナガバモミジイチゴ，シコクトリアシショウマ，ナガバシュロソウ，ミヤマワラビ，カニツリススキなどがみられる。

14　ススキ群団（ススキ群落）

山頂や山頂からのびる尾根部で，毎年採草がくり返されてきたところにみられる。山城町の塩塚峰，同，根津木越では数kmにわたって広いススキ群落があるが，最近ではほとんど刈取りが行われなくなったためコナラが下部から侵入し，次第にコナラ群落へと遷移していく様子がみられた。根津木越付近では，ススキが叢生している中にマルバハギ，ワラビ，コナラ，トダシバ，ミツバツチグリ，アリノトウグサ，アキノキリンソウ，オミナエシ，タチツボスミレ，リンドウなどがみられた。

15　タラノキ－クマイチゴ群落

本県の山地部ではかなり広範囲にわたって皆伐が行われているが，伐採後数年を経たところに，以前の群落構成種の萌芽したものとタラノキ，クマイチゴなどよりなる群落がみられる。本県ではブナ群落の伐採跡数年後には

シロモジが優占する群落が生じてくる。東祖谷山村落合峠の下方では，第1低木層にシロモジ，タラノキ，第2低木層にクマイチゴが優占しており，リョウブ，アズサなどを混じえ，草本層はミヤコザサが一面に密生し，その中にリョウブ，アサノハカエデ，ブナ，シロモジなど以前の群落構成種の萌芽したものが多くみられる。

(E) ヤブツバキクラス域自然植生

16 イワシデ群落

本県の石灰岩地にしばしばイワシデがみられるが，ここ那賀郡木頭村高ノ瀬峡には石灰岩の露頭が多く，そこにイワシデ群落が発達している。

山頂から谷へのびる稜線の中部，凸地形になり石灰岩が露出している地点にあるイワシデ群落を調査した。ここでは，樹高6～8m，胸径約16cmのイワシデが亜高木層に優占し，メグスリノキ，ニガキなども混生している。第1低木層にもイワシデが優占，第2低木層にはヤマブキが散生し，その他ニシキギ，ダンコウバイ，キハギ，シンパク，キビノクロウメモドキ，イワシデなどがみられ，草本層にヤチマタイカリソウ，ナガバコウヤボウキ，イワシデ，ツクシクサボタン，クモノスシダ，ツルギカンギクなど，石灰岩地に特有な種を多く含んでいる。

凡例ではブナクラス域に含めてあるが，本県の場合，ヤブツバキクラス域に入れる。

17 モミーシキミ群集

海部郡の山地部に残されている自然林には，谷に近いところではツガーハイノキ群落があるが，山腹から上部ではモミ林が発達している。

ここでは高木層にアカガシ，ウラジロガシなどの林冠から突き出したモミが優占し，亜高木層にはシキミが多く生育し，アカシデ，シラキ，コナラ，リョウブ，ウラジロガシ，イタヤカエデなどを混じえ，植被率100％を占めている。低木層にはヒサカキ，ヤブツバキ，サカキ，ツガ，ホソバタブなど，草木層はシロダモ，ヤブニッケイ，ホソバタブなど上層構成種の幼木が

わずかに散生している。

なお，この群落については今回の調査範囲（1／5万　13枚　）内で調査できなかったので，以前に調査した資料から引用した。

18　ツガ－ハイノキ群集（ツガ群落）

剣山地や海部山地の谷筋に近い山腹にみられる。那賀郡木頭村千本谷では，高木層に樹高10～15m，胸径約35cmのツガが優占し，亜高木層にイヌシデ，ツガ，ヒメシャラ，アオハダ，リョウブ，ヤシャブシなど，第1低木層にもツガがあり，その他アセビ，アオハダ，エゴノキ，ネジキ，ナナカマド，シラキ，カイナンサラサドウダンなど，第2低木層にはウンゼンツツジが優占し，コバノミツバツツジ，リョウブ，ミヤマクロモジ，ツガ，マルバウツギ，ヤマツツジ，コガクウツギ，イロハモミジなどがみられ，草本層にはコカンスゲ，ツガ，カヤ，ミサキカグマ，ミヤマウズラ，シシガシラなどの他，上層構成種の幼木が多く生育している。

19　サカキ－ウラジロガシ群集（アカガシ群落）

この群落は，阿南市大竜寺山の頂上近くにあり，高木層に樹高12～15m，胸径約85cmのアカガシが優占し，アズサ，イヌシデなども混じえ，亜高木層にはアセビの大木，アカガシ，ヤブツバキ，カゴノキ，シキミ，ヤブニッケイなどがみられ，第1低木層に，ヒサカキ，サカキ，ハイノキ，シキミなど，そして，第2低木層にハイノキ，ヒイラギ，マツラニッケイ，ヤマグルマなどの他，ウラジロガシの幼木もあり，草本層にアカガシ，モミ，シキミ，サカキなど上層構成種の幼木と，ナンカイアオイ，イチャクソウなど少数の草本類が生育している。

20　サカキ－コジイ群落

この群落は内陸部にある神社の社叢としてごく小面積ずつ残されているにすぎないので植生図上ではほとんど表わせない程である。

宍喰町の大山神社の社叢では，高木層に樹高15～20m，胸径約100cmのコジイが優占し，スダジイも少し混じえ，亜高木層にはタイミンタチバナ，

サカキ，クロバイ，コバンモチなど，第1低木層にはヤブツバキ，タイミンタチバナ，コジイ，第2低木層にはコジイ，タイミンタチバナ，クロバイ，カンザブロウノキ，ルリミノキ，ミサオノキ，ツゲモチなどが出現し，草本層にはコジイが優占し，タイミンタチバナ，タブノキ，ヤブツバキ，カンザブロウノキ，サカキなど多数の上層構成種の幼木がみられる。

21　ホルトノキ群落

徳島市城山には，本県唯一のホルトノキ群落がある。ここは，高木層に樹高約15m，胸径約70cmのホルトノキが優占し，ムクノキ，エノキなどと共に密に林冠を形成し，亜高木層にはモチノキ—ヤブツバキ，低木層にはアオキが優占し，ヤブツバキ，ネズミモチ，シロダモ，イヌビワなどがみられ，これらが高い植被率を占めるため林床の発達が悪く，草本層にはベニシダ，フモトシダ，ジャノヒゲ，カラタチバナなどが上層構成種の幼木に混じってわずかに生育している。城山のホルトノキ群落は昭和38年，徳島市の文化財として指定されているが，最近衰弱がはげしい。

22　スダジイ群落

海部郡の神社や島嶼などには，残されたスダジイ群落が点在している。牟岐町津島は無人島で群落がよく保存され，国の天然記念物に指定されている。ここでは高木層には樹高約18m，胸径約50cmのスダジイが優占し，ヤマモモ，ヤマモガシ，タブなどがほとんど100%近い植被率を占めており，亜高木層にはアコウ，ヤマモガシ，ヒメユズリハ，ヤブツバキ，カクレミノなど，低木層にはスダジイ，ヤブツバキ，タイミンタチバナ，タブノキ，オオムラサキシキブ，モッコクなど，草本層にはテイカカズラとツルコウジが一面に地面をおおい，それらの間にウラシマソウ，シラタマカズラ，ムサシアブミ，ホソバカナワラビなどがみられる。

23　ウバメガシ群落

蒲生田岬から南東へのびる海岸線の断崖に発達するウバメガシ群落は，常時，海からの強い風のため樹高はせいぜい5～6mで，マツキー状に叢生し

ている。海部郡由岐町鹿ノ首では，第1低木層に樹高約6mのウバメガシが密生し，トベラ，ヤブツバキなども混生しており，第2低木層にはトベラ，ハマヒサカキ，ヤブツバキなど，そして草本層にもトベラ，ハマヒサカキ，マサキ，マルバシャリンバイ，ヤブツバキなどの他，ツワブキ，キキョウランなどが生育している。

24　河辺ヤナギ低木群落（キシツツジ群落）

吉野川，那賀川などの中流ないし上流の河岸にはキシツツジ群落がみられる。ここでは，樹高約1mのキシツツジが優占し，キハギ，カワラハンノキ，チョウセンネコヤナギ，ホソバイブキシモツケなどが混生している。そして，草本層にはヤシャゼンマイ，イワカンスゲ，イワバノギク，アワモリショウマ，イブキシダ，ホソバシャジン，ホウビシダ，アオヤギバナ，ウナズキギボウシなどこの群落特有の種が多く生育している。三好郡山城町大歩危は，剣山国定公園の範囲内である。

(F)　ヤブツバキクラス域代償植生

25　コナラ群落

四国山地では海抜約900m位まで，コナラ群落がみられる。三好郡池田町中津山の北にある大西山（1／5万地図には名前がのっていない）の海抜950mのところに小面積ではあるがよく発達したコナラ林がある。ここでは高木層に樹高10～13m，胸径約33cmのコナラが優占しクリ，カナクギノキ，エゴノキなども混じえ，亜高木層にはリョウブ，第1低木層にシロモジの他，ノリウツギ，カマツカなど，第2低木層にはシロモジ，ニシキウツギ，タンナサワフタギ，エゴノキ，ウリハダカエデなど，そして草本層にはヤマジノホトトギス，フタリシズカ，ミゾシダ，オオカモメヅル，ヤマシロギク，ナルコユリ，イチャクソウ，タチツボスミレ，イタドリ，クサアジサイなどが多種類が生育している。

26　シイ・カシ萌芽林

県南の山腹や県内を流れる河岸の急傾斜地などにシイ－カシ萌芽林がみられる。海部郡牟岐町では，太平洋に近い山腹にはスダジイとウバメガシが主な構成種で，内陸に入るにつれてコジイとアラカシに移り変わっている。

松尾川沿いの急傾斜地では，亜高木層に樹高６～８ｍ，胸径約１９cmのコジイが優占し，ハゼノキ，コナラ，リョウブなども混生し，低木層にはアラカシ，ヤブツバキ，サカキ，ヒサカキ，カキ，アワノミツバツツジなどの常緑広葉樹が主体であるが，アワノミツバツツジ，リョウブ，コツクバネウツギ，マルバウツギなどの落葉広葉樹も混生している。草本層は発達悪く，シシガシラ，ヒトツバ，マメヅタなどの草本が散生している。

27　伐跡群落（ヌルデ群落）

本県では一般的に伐採直後にはベニバナボロギク－ダンドボロギク群落が発達するが，その後年数を経るにつれてヌルデやアカメガシワが優占してくる。

野根川上流の東谷川沿いには可成り広い伐採跡があり，ここは伐採後数年を経ていると思われる。

ここでは低木層に樹高約２ｍのヌルデが優占し，アカメガシワ，ノリウツギもみられ，草本層にススキ，コアカソ，ヤマアザミ，ダンドボロギク，ベニバナボロギク，ケナシヒメムカシヨモギなどが生育している。

28　ススキ群団（チガヤ群落）

平野部を流れる河川の堤防には，チガヤを主とする群落がみられ，ススキが混生しているところもある。最近では外来シバを播くところも多いが，鮎喰川堤防では，第１草本層はチガヤが一面に密生し，その中にヨモギ，コセンダングサ，オトコヨモギ，アキノノゲシ，イ，ケナシヒメムカシヨモギ，第２草本層はツルボ，カタバミ，キツネノマゴ，ツユクサ，オオアレチノギクなどが生育している。

29　路傍雑草群落（オオアレチノギク－ヨモギ群落）

路傍雑草群落も人工の加わり方や場所によって種構成が異なるが，海部郡

海南町大井の河川敷の路傍では，第1草本層にオオアレチノギク，ヨモギ，アレチマツヨイグサ，第2草本層にオオアレチノギク，ススキ，コセンダングサ，ヤハズソウ，メヒシバ，カラスノマゴ，ツルマメ，コマツナギなどが生育している。

また，鳴門教育大学予定地では，ヒメムカシヨモギとススキが侵占し，オオアレチノギク，ホウキギク，ヨモギ，ヒメムカシヨモギ，オオイヌタデ，イタドリ，コセンダングサ，キンエノコロ，アキエノコロなどが生育していた。

30　アカマツ群落

アカマツ群落は，池田町付近で東に向きをかえて，流れる吉野川の南北両岸に広くみられ，紀伊水道に向かってラッパ状に広がっている。この群落も伐採後の年数や自然環境などの違いにより，いろいろな群落構成がみられる。讃岐山脈の大麻山では，高木層に樹高約10m，胸径約45cmのアカマツが優占し，ヤマザクラもあるが，植林されたスギもみられる。亜高木層はクロバイが優占し，イスノキ，ソヨゴ，シロダモなど，低木層にはヒサカキ，モチツツジ，カゴノキ，ヤマモモ，ネズミモチ，アセビ，ヤブニッケイなど多種類が生育し，草本層にはコシダが密生し，一部にウラジロが侵入している。

本県のアカマツ群落では，海抜約400mより高所ではモチツツジが減り，オンツツジが増える傾向がみられるが，必ずしもそうでないところもあり一概にはいえない。前回はオンツツジ－アカマツ群集とモチツツジ－アカマツ群集を区別したが，今回は一つにまとめて描いた。

31　クロマツ群落

本県の紀伊水道に面する海岸近くに分布している。鳴門市では海岸から遠ざかるにつれてクロマツが漸次減少し，アカマツが増加してくる。そしてクロマツ林とアカマツ林との境界線を引くことは可成り困難である。ここでは，群落構成種の被度50％を目安として区画した。鳴門市大毛島土佐泊浦のクロマツ群落では，高木層に樹高7～10mのクロマツが優占し，亜高木層にもクロマツ，ヤマザクラ，第1低木層にはウバメガシ・クロマツ・コナラ・ネ

ズ，ハゼノキ，ガマズミ，トベラ，ネズミモチなど，第2低木層にはモチツツジが優占しウバメガシ，ハゼノキ，ネジキ，マルバハギ，ヒサカキ，ヤマツツジなども散生している。そして，草本層にはコシダが密生しその間にススキ，コウヤボウキ，ワラビ，シュンランなどが生育している。

(G) 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生

32 ヨシクラス（ヨシ群落）

吉野川，勝浦川，那賀川などの河口に細長く帯状にヨシ群落が発達している。

那賀川河口の阿南市辰巳新田には広範囲にわたってヨシ群落があるが，調査地点では他植物が全く生育していない純群落であった。

33 塩沼地植生（ハママツナーハマサジ群落）

本県では吉野川や那賀川など大きな川の河口に広がった砂浜海岸はあるが，現在では護岸工事によって自然の状態に保たれているところは殆どない。かつては那賀川下流によく発達した塩沼地植生があったが，今では失くなってしまった。

徳島市大原町篭に小規模なものがみられる。ここでは満潮線より下にハママツナの群落があり，汀線付近にハマサジ，フクド，ホソバノハマアカサなどが混生したり，或は帯状に分布している。

34 砂丘植生（コウボウムギ群落）

本県の海岸砂丘植生は護岸工事によって，殆ど失われかかっており自然状態に近いものは鳴門市大毛島の竜宮の磯，阿南市蒲生田町淡島海岸にみられるくらいである。そして，それらもメヒシバやコマツヨイグサなどの帰化植生が侵入し，本来の姿から変わったものになりつつある。鳴門市の竜宮の磯には，コウボウムギが優占した群落があり，ケカモノハシ，オカヒジキ，ハマヒルガオ，ハマボウフウ，ハマイチョウ，メヒシバなどが生育している。

(H) 植林地・耕作地植生

35 クロマツ植林

砂浜海岸の発達したところには，古くから防潮防風のためのクロマツ植林が帯状にあるが，護岸工事やマツクイムシによって次第に衰えてきている。そのため幼木が林内に植えられすでに可成り成長しているところもある。海部郡海南町大里海岸では，高木層に樹高10～12m，胸径約50cmのクロマツが高い植被率で林冠を形成し，亜高木層もクロマツ，第1低木層にも近年植林されたクロマツが生育し，第2低木層にはナワシログミが散生し，第1草本層にはススキ，ハマゴウ，タブノキ，トベラ，ネズミモチなど，そして第2草本層にはヒメヤブランとテイカカズラが一面に生育し，カタバミ，ヤクシソウ，ツワブキ，ツタ，ヨモギ，キツネノマゴなどが点在している。

36 スギ，ヒノキ，サワラ植林（スギ植林）

本県の人工林率は昭和53年度現在62.7％で，昭和65年度末人工林率の全国目標60％をすでに上まわっている。剣山地南側の那賀郡・海部郡などは南からの湿った風を受け，降雨量が多いため古くからスギ，ヒノキの植林が盛んである。スギ植林は海岸近くから海抜1,500m位までの範囲にわたっており，植林内に生育している植物も，海抜高や地形その他の環境条件によって異なっている。

三好郡東祖谷山村深淵のスギ幼令植林地では，樹高約2mのスギと草本層には伐採跡群落構成種であるススキ，ヒメムカシヨモギ，ヒメジョオン，ヌルデなどの他に，以前の群落構成種であるミズナラ，タンナサワフタギ，イヌシデ，コバノトネリコ，コハウチワカエデ，ミヤマザクラなどが生育している。

37 カラマツ植林

カラマツは海抜約1,000m以上に植林され，三好郡三加茂町風呂ノ塔，同東祖谷山村水ノ口峠，剣山などにあるが，面積としてはそう広くはない。風呂ノ塔の海抜1,240m付近では，高木層に樹高約15m，胸径約30cmのカ

ラマツがよく成育し密に林冠を形成し，スギ，ヒノキもわずかながら植えられ混生している。光が十分達しないため草本層の発達は悪く，テンニンソウ，シシガシラ，ホウチャクソウ，ヤマアジサイ，シロバナエンレイソウ，マツブサ，ツタウルシなどブナクラス域の識別種・標徴種を含んでいる。

38　外国産針葉樹植林（スラッシュマツ植林）

阿波郡市場町，海部郡，徳島市などに植林されている。徳島市眉山には県林業センターが試験的に植えたスラッシュマツの植林地があるが，そこではすでに胸径約15cm，樹高8～10mに生育している。低木層はネズミモチ，ゴンズイ，ヤマザクラ，リョウブ，ハゼノキ，クサギなど，草本層は高さ1m位のウラジロとともに，ススキ，ワラビ，ナカバモミジイチゴ，ネズミモチ，モチツツジ，ヤブムラサキなどが一面に密生している。

39　モウソウチク林

阿南市の海岸に近い丘陵地には，広くモウソウチク林が分布して，タケノコの産地となっている。この他，県下各地の山間部の集落にも民家の裏山などに小面積のモウソウチク林をよくみる。

阿南市のよく手入れのいきとどいたところでは，15～20mに生長したモウソウチクが高木層に100％の植被率で生育しており，亜高木層，低木層を欠き，草本層にはヤマイモ，サルトリイバラ，ヒサカキ，ヒヨドリジョウゴ，シハイスミレ，チヂミザサなどがわずかに生育している。

40　常緑果樹園

勝浦郡勝浦町を中心にウンシュウミカンの栽培が盛んで，その他那賀郡，海部郡，阿波郡，三好郡などにも小面積ながらカンキツ類の果樹園がある。

41　落葉果樹園

鳴門市，板野郡，阿波郡などに，主にナシやブドウなどの果樹園がある。果樹園内はよく手入れされているが，園内にアゼガヤ，トキワハゼ，メヒシバ，イヌビユ，スベリヒユ，タカサブロウ，アゼナ，ウリクサなどの畑地雑

草がわずかに生育している。

42 桑　園

美馬郡，三好郡などの山間部傾斜地を中心にみられる。

43 茶　畑

三好郡山城町は本県における茶の主産地で，大歩危付近で多く栽培されている。その他三好郡西祖谷山村，美馬郡半田町，那賀郡相生町にも小規模ながら茶畑がみられる。

44 苗　圃

剣山地の美馬郡木屋平村に小面積みられる。

45 畑地雑草群落

平野部及び山間部の段々畑にみられるのはほとんど1年生草本で，場所により季節によって異なるが，春にはハコベ，コハコベ，ウシハコベ，ノミノフスマ，ノミノツヅリ，ホトケノザ，イヌガラシ，スズメノカタビラ，ナズナなどが多く，夏にはメヒシバ，エノコログサ，アキノエノコログサ，カヤツリグサ，コゴメガヤツリ，ニシキソウ，コニシキソウ，スベリヒユ，ザクロソウ，クルマバザクロソウなどもよく生育している。

46 ゴルフ場

鳴門市，徳島市，阿南市，阿波郡などに広いゴルフ場が造られており，シバが植えられ手入れがよくいきとどいている。

47 水田雑草群落

吉野川平野，那賀川平野，勝浦川平野などの平野部及び山間部のわずかな平地を利用した水田がみられる。水田にみられる雑草はタイヌビエ，ケイヌビエ，コナギ，オモダカ，ウリカワ，イボクサ，アブノメ，ミズオオバコ，スブタ，ヤナギスブタ，アゼナ，アギナシ，チョウジタデ，ヒデリコ，タマガヤツリなどである。

(1) そ の 他

48 市街地

徳島市，鳴門市，小松島市，阿南市の4市に集中してある。

49 緑の多い住宅地

これは各市の中心部から少し離れたところや，国道沿いその他に集落がある。

50 工場地帯

鳴門市，板野郡北島町，小松島市，阿南市などに工場がみられる。

51 造 成 地

宅地，工場用地，採石場などをまとめて造成地として示した。

52 自然裸地

山地の崩壊地，河川の中洲などまだ植物が生育できないところである。

(5) 資料リスト

番号	筆者名（または発行者名）	発行年（西暦）	資料名
1	阿部近一・森本康滋	1978	第2回自然環境保全基礎調査。 特定植物群落調査報告書，徳島県。
2	友成孟宏・森本康滋 石井恒義	1979	市場町の植生，郷土研究発表会紀要25：55～69，阿波学会・徳島県立図書館。
3	森本康滋	1971	剣山周辺の植生と植生図，剣山県民の森総合学術調査報告書：20～31，徳島県。
4	森本康滋	1973	自然環境保全調査 植生自然度 徳島県現在植生図
5	森本康滋	1974	宍喰町の植生，郷土研究発表会紀要20：31～38，阿波学会・徳島県立図書館。
6	森本康滋・石井恒義	1976	大麻山県立自然公園地域保全調査報告書：1～18，徳島県自然保護協会。
7	森本康滋・石井恒義 友成孟宏	1976	湯桶谷の植生，湯桶谷地域自然環境保全調査報告書：16～27，徳島県自然保護協会。
8	森本康滋・石井恒義他	1977	城山の植生，徳島市城山，徳島県自然保護協会調査報告書2：27～47，徳島県自然保護協会
9	森本康滋・友成孟宏他	1977	牟岐町の植生，郷土研究発表会紀要23：61～73，阿波学会・徳島県立図書館。
10	森本康滋・友成孟宏	1978	山城町の植生，郷土研究発表会紀要24：21～34，阿波学会・徳島県立図書館。
11	森本康滋・石井恒義	1979	野鹿池山の植生，野鹿池山自然環境保全調査報告書：35～41，徳島県自然保護協会
12	森本康滋	1980	徳島県の植生一自然環境と植生概観，徳島県高等学校理科学会誌21：33～38，徳島県高等学校教育研究会理科学会

(6) 調査担当者名簿

番号	氏名	所属	分担分野
1	森本康滋	徳島県立城南高校	総括責任者
2	石井恒義	徳島大学教育学部	現地調査・群落区分
3	友成孟宏	吉野中学校	〃 〃

第2回　自然環境保全基礎調査

植生調査報告書

昭和55年3月31日

編集　　徳　島　県

環境庁委託調査